新潟・築地館東遺跡

1　所在地　新潟県胎内市（旧北蒲原郡中条町）築地
2　調査期間　二〇〇四年（平16）一〇月
3　発掘機関　中条町教育委員会
4　調査担当者　吉村光彦
5　遺跡の種類　集落跡
6　遺跡の年代　奈良時代～平安時代初期、中世
7　遺跡及び木簡出土遺構の概要

築地館東遺跡は、砂丘内端とその際を流れる河川との中間地点に位置する。今回の調査は、県営圃場整備事業に伴う水路部分の調査である。調査の結果、自然流路を検出し、木簡が出土した。調査区が幅三mと狭小であったため、流路以外の様相は不明であるが、河川の周辺に展開した遺跡ということができる。

木簡は自然流路から一点出土した。共伴遺物には、須恵器・土師器や木製品がある。また、川底近くに長大な木が固定されており、何らかの施設が存在した可能性がある。木簡の年代は、共伴遺物などから八世紀と考えられる。

8　木簡の釈文・内容

(1)　「山家深□［江カ］」　(105)×25×2　019

上端を圭頭状に整形しており、左右の側面は原形をとどめるが、下端は欠損している。また、表面は一部剝離している。山家は越後国磐船郡の郷名で、荷札木簡の可能性も考えられよう。山家郷の記載のある木簡は、旧中条町内の屋敷遺跡からも出土している（本誌第二五号）。

なお、釈読は、新潟市歴史文化課の相沢央氏のご教示によった。

（水澤幸一）